

第 1 回検討会議の振り返りと ミュージアムのミッションについて

ミュージアム民活検討会議と運営検討部会の進め方

- 3館の検討部会でミッションや民活導入手法を検討し、有識者による検討会議で多角的に検証
- 各検討部会で民活導入手法案を決定し、検討会議の検証を経て、市として最終的に意思決定

民活検討会議（文化企画課）

運営検討部会（3館）

会議の種別

市政運営上の会合（公開）

その他の会合（非公開）

済

②第1回 8月26日

- ・ 市政変革の経緯を説明（文企）
- ・ 部会の検討状況を報告（各館）
 - － 館のミッション など

済

①第1回（準備会）

7月～8月

- ・ 市政変革の経緯や館の現状等を報告
- ・ 館のミッションを議論、再確認

済

③第2回

8月～10月

- ・ 民活導入の考え方や選択肢を説明
- ・ 民活導入手法を議論（他都市比較等）

済

④第3回

10～11月

- ・ 変革検討会議での意見や他都市事例等を踏まえ、民活導入手法案を議論

⑥第4回

12月～1月

- ・ 検討部会としての民活導入手法案を決定
- ・ 具体的施策や民間等に期待するものを検討

議論の
イメージ

今回

⑤第2回 11月27日

- ・ 第1回会議の振り返り等（文企）
- ・ 部会の検討状況を報告（各館）
 - － 民活導入の検討状況 など

⑦第3回

2月～3月

- ・ 各館の検討概要を説明（文企）
- ・ 部会の検討状況を報告（各館）
 - － 民活導入手法案 など

第1回ミュージアム民活検討会議の主な意見

- ミッションのあり方やミュージアムの持続可能性向上、集客の方策等に関するご意見をいただいた

全体意見

- ① ミッションが事業の羅列になっている館があるため、**最重要ポイントを抽象化したミッション**が必要
- ② **ミュージアムの持続可能性を高めるために**、効率化した原資を本来目的へ再投資する流れが必要
- ③ コスト削減は限界があるため、**「稼ぐ」という視点や文化観光の視点**が必要
- ④ 来館に至るまでのタッチポイントを意識して**戦略的に集客するためには民間ノウハウの活用**が必要
- ⑤ 各館**学芸員の研究**について、その成果や企画への活用などの**分かりやすい情報発信**が必要
- ⑥ 民活導入にあたっては、単なる集客だけでなく、**次のユーザーや担い手を育てる視点**も必要

個別意見

科学館

- ① 入館者の減少が続いているため、ターゲット設定や踏み込んだ目標管理が必要
- ② 非日常感があり強い集客コンテンツであるプラネタリウムを活かした、広域からの集客が必要
- ③ アウトレット内の立地を活かし、周辺施設と連携した大人の社会見学等の検討が必要

漫画M

- ① 都心部の立地を踏まえると、賑わい・稼げるまち・インバウンドなど、貢献すべき役割は多い
- ② 海外観光客は写真を撮るためだけに移動することも多く、フォトスポットが重要
- ③ 漫画やアニメと関連して、声優とのコラボなど、広域から集客できる取組が必要
- ④ 図書（閲覧）コーナーなど、リピーターが支える部分も大きいため、リピーター層の把握も重要

美術館

- ① 建物や緑の多さは美術館の強みであるため、アクセスの困難さを逆手に取った集客施策が必要
- ② 滞在時間を延長できれば収益アップのチャンス
- ③ 社会教育機能を果たすことは集客にもつながるため、文化観光と社会教育は2項対立軸ではない
- ④ 学芸員の企画について、打ち出し方を工夫する等、常設展の価値を活用した来館者増加策が必要

博物館

- ① 展示だけでなく、学芸員の研究成果のわかりやすい情報発信が必要
- ② 国の研究費を申請できる「研究機関」に認定されるなど、学芸員の取組は評価できる

北九州市のミュージアムが目指す姿（叩き台）

- 北九州市の文化振興施策の基本理念「まちに彩りを。心に豊かさを。多様な人を惹きつける文化共創都市」の実現を目指し、**ミュージアムの目指す姿や果たすべき役割等を整理**

目指す姿

（仮）もっと感動ミュージアム

感動を生み出すため、ミュージアムの「空間・仕組み・サービス」をユーザー目線でもっと豊かに

主な役割

1

社会教育機能

市民の豊かな感性を育む

ミュージアムのリソースを活用し、市民や来館者の知的好奇心を刺激するとともに、新たな学びや気づきを生み出す源泉として貢献する。



- ①科学の楽しさを実体験できるサイエンスショー等の実施（R6:20,432名）
②漫画体験や漫画スクールなど、体験型ワークショップの開催（R6：計62回 2,253名）
③小学生がオンラインで美術館や作品を鑑賞するミュージアムツアーの実施（R6:20校1,144名）

2

文化観光機能

まちに彩りと賑わいを創る

ミュージアムのリソースを活用し、優れた文化芸術に触れる機会を創出するとともに、市内外から多様な人を惹きつけ、文化観光を推進する。



- ①集客力の高い企画展（横山大観展等）や魅力的な空間を活かしたイブニングコンサート等の開催（R6:104,306名）
②コンサートとの連携など、非日常感のあるプラネタリウムの開催（R6:129,110名）
③夜間の魅力的なコンテンツ、ナイトミュージアムの開催（R6:6回3,708名）

3

調査研究機能

地域の文化を未来に伝える

文化芸術に関する資料を収集・保存し、調査研究の成果を還元することで、次世代の郷土愛を育み、地域の文化芸術を未来に引き継ぐ。



- ①博物館の学芸員による調査研究に基づくオリジナル特別展の開催と他都市への巡回（世界の野生ネコ科展3都市巡回）
②地元作家の調査に基づくコレクション展・企画展の開催（R4平野遼展、R5松野一夫展）
③松本零士展など地元ゆかり作家の大型展覧会の開催（R7.9.27～R8.1.12）

取組事例

目指す姿の実現に向けた主な課題意識と打ち手の仮説

- 民活検討会議等の意見を踏まえて、目指す姿の実現に向けた課題意識や打ち手の仮説等を整理
- 目指す姿の実現に向けては、民間ノウハウの活用や学芸機能の安定的な確保が必要

主な役割

1

社会教育機能

市民の豊かな感性を育む



2

文化観光機能

まちに彩りと賑わいを創る



3

調査研究機能

地域の文化を未来に伝える



主な課題意識

- ① 事務職員は定期的な人事異動があるため、広報等の企画運営ノウハウ蓄積が不十分。
- ② 多様なミュージアムや周辺施設等と連携した、周遊効果の高い取組が必要。
- ③ 次の世代に引き継いでいくために、若い世代の興味関心を踏まえた企画運営が必要。

- ①ミュージアムが持つコンテンツや学芸員が企画する特別展等を、魅力的かつ分かりやすく伝えるノウハウが必要。
- ②繁閑に合わせた、展示の魅力を伝える解説員の柔軟な人員配置が困難。



- ①安定した来館者数を維持する館がある一方で、来館者の減少傾向が続く館がある。
- ②民間との親和性が高く、そのノウハウを活用することで、来館者の増加が期待できる館がある。



- ①ミュージアムの専門性に対応する、優れた学芸員の安定的な確保が必要。
- ②国内外の関係者と信頼関係を有する学芸員による、中長期的な調査研究や企画への還元が必要。



打ち手の仮説

- ① 広報や施設管理などを民間に委ねることで、より効果的にミュージアムの魅力を伝え、長期的に集客等のノウハウを維持できるのではないか？
- ② 民間ノウハウの活用にあたっては、民間人材の登用や指定管理者制度など、多様な手法を調査し、民活導入を検討すべきではないか？
- ③ ミュージアムの魅力を支える学芸機能は、行政が責任をもって担保することで、安定して地域の文化芸術を継承できるのではないか？

各館ミッション等の再確認結果

- 各館の運営検討部会等でミッション等を再確認し、今後の方向性を整理した

ミッション・基本理念等（現行）

再確認の結果（今後の方向性）

博物館

- 自然と人間の関わりを考える共生博物館

- ① 博物館の展示において示していく
- ② 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- ③ 資料収集、保存及び研究を進めていく



- 外部有識者で構成する博物館協議会への諮問を経て、**令和7年12月末までに新たなミッションを策定**する予定

美術館

- 市民と生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域とともに成長していく美術館

- ① 文化資源を伝承する
- ② 作品世界を多様に、存分に味わう
- ③ 地域とともに成長する
- ④ 美術の魅力伝える
- ⑤ 美術館体験の伝承



- **文化観光の要素を追加**
 - 北九州市立美術館の基本理念を体現しつつ、地域における教育、学術及び文化の振興、**文化観光の推進**を図り、**多くの人を惹きつけて地域活力の向上に寄与する**

科学館

- さまざまな方が科学を通じて交流し、科学技術への関心を高め、創造的な活動の拠点として、北九州市の未来を創る原動力になること

- ① 身近な現象をベースに科学の原理・原則や最先端技術が体感できる展示
- ② 天文学習をはじめ、さまざまなプログラムが投影可能なプラネタリウム
- ③ 科学館でしか体験できない教室・講座等を実施
- ④ 企業や大学、市民など関係団体等との連携・協働



- 開館4年目と策定から期間が経過していないため、**ミッションの見直しはしない**
- 運営検討部会では、ユーザー目線への転換やイメージ戦略など、**ミッションの実現に向けて必要な視点を検討**

漫画M

- 漫画ミュージアムは、地元ゆかりの漫画家を中心に、幅広く漫画作品と関連資料を収集・保存し、漫画の特性や魅力をどのように伝えていくかなどの研究を行う。

- その研究成果を展示や閲覧等に活かし、漫画の持つ魅力や特性を次世代に伝えるという文化振興の一翼を担うという使命を持っている。

- 子どもから大人まで、幅広い世代が集う場所となることによって、まちの魅力づくり、賑わいの創出にも寄与する。



- **コミュニティ・人材育成等の要素を追加**
 - 地元ゆかりの漫画家を中心に、幅広く漫画作品と関連資料を収集・保存し、漫画の特性や魅力、およびそれをどのように伝えていくかなどの研究を行う。
 - 研究成果を展示や閲覧等に活かし、子どもから大人まで、**幅広い世代のコミュニケーションの場**となることで、まちの魅力づくり、賑わいの創出にも寄与する。
 - 漫画の持つ魅力や特性を次世代に継承するという、**人材育成、文化振興の一翼**を担う